二葉だより

令和5年6月30日 NO.4
墨田区立二葉小学校
校 長　山崎 隆

強さの鍵は「人間性」にあり

校長 山崎 隆

将棋の名人戦で、藤井聡太竜王が渡辺明名人に勝利してタイトルを獲得しました。藤井さんは14 歳で将棋のプロになり、歴代1位の 29 連勝や 17 歳の高校生でタイトルを獲得するなど将棋界の記録を次々と塗り替えてきましたが、「名人」の最年少記録を 40 年ぶりに更新しました。そして、「名人」を獲得したことで将棋の8つのタイトルのうち「王座」以外の7冠となりました。

藤井さんは5歳で将棋に出会い、6歳の頃に「将棋の名人になりたい」という夢をもちました。幼い頃から夢見た「名人」を獲得し、「名人という言葉には子供の頃からあこがれの気持ちを抱いていたので感慨深い。ただ、その立場になってみるとそれで終わりではなく、先がずっとある。しっかりやっていきたい。」と語っています。その言葉には、「自分自身の成長」というぶれない向上心と将棋に出会った頃からの「強くなりたい」という純粋な思いが込められています。

藤井さんの強みは、鋭い直感に加えて最新のAI研究を使って対戦相手の先を行く「読みの深さと速さ」を磨いていることです。対局ではさらなる最善手を求める「考える天才」でもあります。一方で、「あれだけの実績を重ねながら藤井さんは将棋界で1番か2番の努力をしている。」と語るライバルもいます。「天才」が「努力」を重ねれば鬼に金棒ですが、藤井さんは敗北も無駄にせず、しっかりと課題と向き合って自身の成長につなげています。初対戦から6連敗した豊島将之九段との対戦では最終盤に大逆転負けをしてしまい、師匠の杉本八段はその落胆ぶりを心配しましたが、帰りの新幹線で完全に立ち直った藤井さんの姿から、「どんなに悔しく辛い結果でも決して将棋から逃げない。最後は必ず気持ちが戻ってくる。それが藤井聡太。」と語ります。さらに藤井さんは、7冠となっても「タイトル戦では常に挑戦者の気持ちで臨みたい」という謙虚さも同時にもち合わせます。「将棋の名人になりたい」という夢やあこがれを子供の頃からもち続けてきたこと、そして常に成長するための向上心や負けても立ち直る強い気持ちをもっていることなど、20 歳 10 か月で「名人」を獲得し、最年少7冠となった藤井さんの人間性に無限の可能性を感じます。

藤井さんはあるイベントで「もしも将棋の神様がいるならば、何をお願いしますか。」と質問され、「せっかく神様がいるなら一局お手合わせをお願いしたい。」と答えました。将棋の技でも最新のAIでも数値化したり言語化したりすることが難しい、この「人間性や心の面」こそが、もし対戦が実現したら将棋の神様にさえ勝ってしまうのではないかと思わせる藤井聡太名人の強さの鍵なのではないでしょうか。

二葉小学校では、令和2年度から「学びに向かう力」を発揮する児童の育成に取り組んでいます。令和5年度は、3･4年度の墨田区教育委員会研究協力校の成果を生かして、児童が粘り強く学習を進める力や学習のめあて･方法などを決めたり調整したりする力の育成など、学習に取り組む気持ちや心などの情緒面を重視して取り組んでいます。子供たちの「人間性や心の面」を藤井さんのように磨いていくことで、さらなる学力の向上やよりよい学校生活につなげていきます。引き続きご理解とご協力をお願いします。